

特別ルールマニュアル

○内容物

原作のマニュアルを参照してください。

○ストーリー

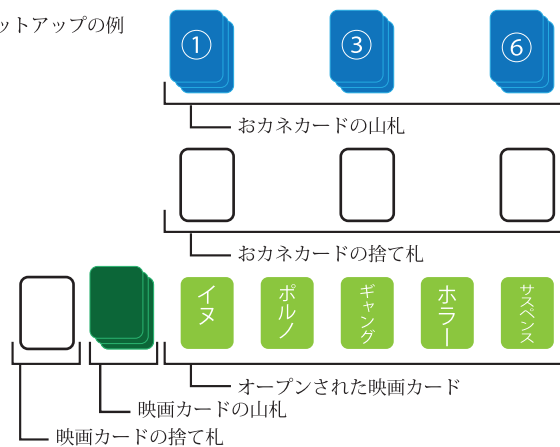
皆さんは映画のプロデューサーです。映画を作ったり裏金を作ったりすることで影響力を高め、業界における新の実力者を目指しましょう！

○ゲームの準備

- ・各プレイヤーに新人カードを1枚ずつ配ります。
 - ・各プレイヤーは配られた新人カードを自分の前に、表向きに置きます。
 - ・おカネカードを額面ごとにシャッフルし、それぞれ裏向きの山札を作ります。
 - ・各プレイヤーに①カード×2枚、③カード×2枚を裏向きに配ります。各プレイヤーは配られたカードを手札として、表面が他プレイヤーに見えないように持ちます。
 - ・映画カードをよくシャッフルし、裏向きの山札を作ります。
- (※山札に END カードは入れません。本ルールでは END カードを使用しません)
- ・映画カードの山札の上から5枚をオープンし、1列に並べます。

1

セットアップの例



○ゲームの流れ

- ・最近映画を観たプレイヤーが最初の手番プレイヤーになります。
 - いない場合やわからない場合は、適当な方法で最初の手番プレイヤーを決めてください。
 - ・各手番では以下の6つのフェイズを順番に行います。
1. 投資フェイズ
 2. チェンジフェイズ
 3. タレント契約フェイズ
 4. 作品制作フェイズ
 5. 利益回収フェイズ
 6. カード補充フェイズ
- ※新人カードの裏面にもフェイズの一覧が載っています。

2

1. 投資フェイズ

- ・投資フェイズについてはあとで説明します。

2. チェンジフェイズ

- ・手番プレイヤーは場に並んだ映画カードが気に入らなかった場合、その全てを捨て札にして新たなカードを山札から並べても構いません。その際、①カードを場に支払います。①カードを持っていない場合、③カードを払って①カードを2枚引くか、⑥カードを払って③カード1枚と①カード2枚を引いてください。

この行為をチェンジと呼びます。

- ・手番プレイヤーはおカネカードがあるかぎり何度でもチェンジを行えます。ただし、新たなカードを山札から並べる際、その枚数は直前に並んでいた枚数よりも1枚少なくなります。

※捨て札にした映画カードは山札の隣に、表向きに重ねます。
※おカネカードを支払う場合は各額面の山札の前に、表向きに捨てます。おカネカードの山札が尽きた場合は、捨て札をシャッフルし、新たな山札を作ります。
※お金カードを獲得する際は、可能な限り額面の大きいカードの枚数が多くなるように受け取ります。お金カードの両替はできません。

3. タレント契約フェイズ

- ・映画カードは「Yukidama Agency 社が斡旋するタレント(※以下 タレント)」と「作品」の2種類に分けられます。
- ・手番プレイヤーは場に並んだタレントを自由に選び、

3

- カードの右上に示された契約金の合計額を場に支払うことで、彼ら・彼女らと契約できます。
- ・契約したタレントは自分の前に、表向きに並べます。
 - ・以降、手番プレイヤーはタレントカードに書かれた様々な能力を使用できます。
 - ・手番プレイヤーは一切、タレントと契約しなくてもかまいません。
 - ・タレントとの契約ではおつりを受け取ることができます。

4. 作品制作フェイズ

- ・作品カードはさらに「Qvinta Essentia Entertainment 社(※以下 Q E 社)の作品」と「Cosaic Pictures 社(※以下 C P 社)の作品」の2種類に分けられます。
- ・手番プレイヤーは場に並んだQ E 社かC P 社、どちらか一方の作品を好きなだけ選び、それらのカードに自分が契約しているタレントを自由に派遣できます。
- ・1枚の作品に複数のタレントが派遣されている場合、それぞれのタレントは共演者と呼ばれます。
- ・手番プレイヤーはタレントを派遣した全作品の収益(カードに示された金額)と、タレントの能力による追加の収益を合計し、その額に等しいおカネカードを獲得します。その後、タレントを派遣した全作品のカードを獲得します。
- ・獲得した作品のカードは自分の前に、表向きに置いておきます。これらは得点カードと呼ばれ、常に他プレイヤーへ公開されています。また、後述するゲームの終了条件にも関わってきます。

4